

松山—台北 結ぶ日台の絆

ウェブマガジンで情報発信

台湾との交流を深めようと、独自の切り口で情報発信するウェブマガジン「MOBURU+（モブルプラス）」がある。松山市と台北市に編集拠点を置き、愛媛県、広島県、山口県を中心に島根県、高知県も含めた西瀬戸内地域の観光や物産、イベントなどの情報を発信している。新型コロナウイルス禍の厳しい環境だが、台湾との新たな交流を生み出そうと奮闘中だ。サイトには、愛媛県出身で歌手、声優として活躍する水樹奈々さんもコメントを寄せ、エールを送っている。（村上栄一）

コロナ後 観光客増に期待



那我先來吃吃看唷～



①自分で焼いた「もみじ饅頭」を食べるリポーターの台湾人の女性

②お好み焼きの作り方を紹介する動画

（いずれもMOBURU+の動画から）

モブルプラスは、NPO法人「MOBURU HOUSE」が昨年10月に立ち上げた。松山空港や広島空港に台湾との直行便があることから、両空港を基点に地域と台湾の関係を深めたいという狙いがある。日本語と中国語の両方で運営。日本在住の台湾人が圈内の観光スポットなどを訪ねる動画を配信したり、台湾の大手通販サイトと連携して特産品の通信販売も手がけたりしている。

また、広島県では島崎神社で有名な宮島（廿日市市）にある「やまた屋」で「もみじ饅頭」を作ったり、広島市南区の「オコス」でお好み焼きを焼いた

り、東広島市の酒造を巡ったりと、海外へは届きにくい地方の情報を、臨場感たっぷり届けたい。モブルプラスは、プロデュースする黒田仁朗さんによると、日台の関係は親密化しており、日本にとって台湾は「信頼できる友人」。訪日台湾人のリピーター率は高く、新型コロナウイルスの感染状況から「都会よりも地方が安全」という意識もあるといい、収束後の観光需要にも期待を寄せている。

黒田さんは「台湾人が台湾人のまなざしと言葉で、西瀬戸内海地域の観光や特産品、郷土料理などを紹介。台湾で行われる特産品販売やイベントは現地にいる日本人、台湾人がリポーター」と話し、地方と台湾をつなぐつとつしている。サイトでは、9月から新連載「林さんが語る『知られざる近藤兵太郎』」が始まった。映画「KANO 1931海の向こうの甲子園」で紹介された松山市出身の野球監督、近藤兵太郎さん（1888～1966年）から直接、野球の指導を受けた林司朗さん（松山市）へのインタビュー記事を掲載している。

近藤さんは大正7年に松山商業高校の初代野球部コーチ（監督）に就き、翌年夏の全国大会に初めて出場。日本統治下だった台湾に渡って嘉義農林学校（現国立嘉義大学）野球部を率

いた。昭和6年には全国大会に初出場して準優勝。戦後は日本に引き揚げ、新田高校で監督を務めた。林さんは同校野球部員として晩年の近藤さんに出会った。インタビューでは、自分のことを公にすることが少なかったという近藤さんの素顔が語られ、高校野球史ファンには注目のコンテンツとなっている。また、昨年11月に行われた「バシー海峡戦没者慰霊祭」の様子も掲載。バシー海峡は台湾とフィリピンの間の海で、先の大戦で日本が戦況不利となつてからはフィリピン方面に向かう輸送船が次々に米軍潜水艦に沈められ、死者は10万人以上といわれる。戦後70年の平成27年に台湾在住の日本人、台湾人を中心に民間の実行委員会ができて、以降、毎年慰霊祭を営んでいる。こうした歴史的な事柄も掲載することについて、黒田さんは「日本と台湾の絆を、世代を超えてつなぐ手助けをできれば」と話している。



◇…成田空港に駐機する旅客機のすぐ近くで結婚の記念撮影ができるサービスが始まった。カップルが非日常の風景を味わいながら撮影に臨んだ一写真。

◇…新型コロナウイルス禍で新婚旅行や挙式が難しくなる中、空港ならではの取り組みとして成田国際空港会社が航空会社などと連携。撮影は12月24日まで。

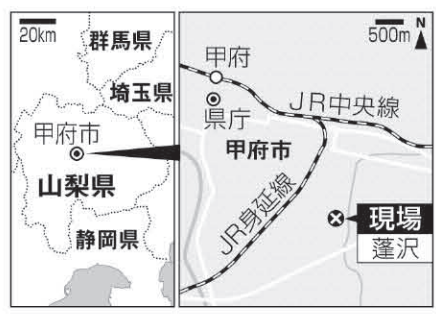
◇…11日に撮影したカップルは結婚式を2度延期。駐機場やターミナル内でさまざまなポーズで写真に納まり、「一生の思い出になる」と終始笑顔だった。

住宅全焼 1遺体発見

甲府、夫婦不明 争う声 男逃走か

12日午前3時50分ごろ、甲府市蓬沢の住宅から出火、木造2階建てが全焼し

性別不明の1人の遺体が見つかった。山梨県警によると、住人の50代夫婦と連絡がとれておらず、遺体の身元確認を急ぐ。住宅から出火前に「泥棒に入られた」



半年後 4人に1人後遺症 コロナ感染 女性に多い傾向

新型コロナウイルスの後遺症の例
長く続く症状
 だるさ、味覚や嗅覚の異常、呼吸時の苦しさ
回復後に出た症状
 脱毛、集中力の低下、記憶の障害、うつ症状
 ※国立国際医療研究センターによる

ある人を対象に実施。回答があった457人を分析し、半年後にも約26%に何らかの後遺症がみられ、1年後も約8%に症状があった。どのようになら後遺症が出やすいか調べた結果、女性ほどだるさの症状が出るリスクが2倍と高いことが分かった。味覚や嗅覚の異常は女性のほか、若い人、やせている人に出やすかった。

豪雨の教訓忘れない 台風19号2年 宮城で追悼式

記録的な豪雨で13都県の120人超が犠牲となった令和元年の台風19号（東日本台風）は12日、上陸から2年を迎えた。宮城県丸森町では犠牲者の追悼式が開かれ、遺族らが教訓の継承を誓った。各被災地の計5千人超が仮住まいを強いられ、生活再建は依然途上にある。災害関連死を含め11人が死亡、1人が行方不明となった丸森町の丸森まちづく

と通報があり、夫婦の娘が不審な男を目撃。男は現場から徒歩で逃げたという。事件の可能性が高いとみて、県警が行方を追っている。現場は甲府市の南東約3.5キロにある住宅地。近所の女性によると、午前4時ごろに、家の外がだんだん赤くなってきた。警察からも逃げろと言われた」と驚いた様子だった。

後にも約26%に何らかの後遺症がみられ、1年後も約8%に症状があった。どのようになら後遺症が出やすいか調べた結果、女性ほどだるさの症状が出るリスクが2倍と高いことが分かった。味覚や嗅覚の異常は女性のほか、若い人、やせている人に出やすかった。